

## 第94回メーデー大会開催!!

今年で94回目となる労働者の祭典「メーデー大会」が4月29日（祝・土）から5月1日（月）にかけて全国各地で開催された。4年ぶりに人数制限を設けない形となり、各産別より多くの組合員が集結。コロナ禍や急激な物価高が労働者に大きな影響を与えている現状を踏まえ、賃上げや雇用確保等のこれまでの取り組みの重要性をあらためて認識し、さらなる意思統一を図った。

### 各地区集會に組合員が参加!

5月1日（月）に高松市「サンポート高松多目的広場」にて開催された香川県メーデー中央集會には、香川県池田知事や高松市大西市長、立憲民主党小川香川県連代表、国民民主党山本議員をはじめ多くの来賓が出席するとともに、JR四国労働組合員を含む約600名が参集した。

主催者を代表し挨拶に立った連合香川の福家会長は、統一地方選への取り組みへの謝意やロシアのウクライナ侵攻への懸念を示したのち、「この3年間、コロナの影響により働く現場は神経をすり減らして対応してきた」と振り返るとともに、「2019年の働き方改革関連法施行、2020年からのコロナ禍を経て、2023年は働くこと、働く人も新たなステージに向かう必要があり、人への投資の具体化、持続可能な未来づくりに向けて取り組みを進めなければならない」と強調。特に「今次春季生活闘争における賃上げ率の平均が3.69%と30年ぶりの高水準にあり、来年以降もこの動きを継続させることが必要であり、地場、中小の組合がしっかりと賃上げができることが重要だ」と説いた。

続いて、メーデースローガン及び「社会を支え続ける仲間たち、すべての働く仲間の奮闘を互いに称えつつ、誰一人取り残されることのない社会、一人ひとりが尊重される多様性を認め合う社会をめざし、みんなが輝く未来を、力をあわせてつくりたい」とのメーデー宣言を満場一致で承認。福家会長の団結カンパニーで香川県メーデー中央集會を締めくくった。

## 職場対話行動2023を開催



参加した組合員からは、今次春闘交渉における定期昇給完全実施とベア獲得を評価する意見とともに、物価高により生活の苦しさが増しており、期末手当に対してより一層期待が高まっているとの声があがった。また、制度面や職場での諸問題改善の要望、業務量の増加や要員不足、離職に関する意見も寄せられた。本部はこれに対し、賃金改善の流れを継続することの重要性や組合員の想いを結集して策定した「ユニオンビジョン2023」を活用し、労働条件の改善に引き続き取り組んでいく考えを示した。



第20回統一地方選挙(後半戦)の投票風景。市議選・町議選の投票率が4月23日に行われ、各県協推薦候補10名全員が見事当選を果たすことができた。

## 「ユニオンビジョン2023」を会社に手交! 人財確保の必要性を改めて会社に訴える!

JR四国労働組は、4月14日（金）にJR四国、ジェイアール四国バスに対し、「ユニオンビジョン2023 私たちが考える『持続可能なJR四国グループをつくる人財確保』」を提出し、人財確保の必要性を改めて会社に訴える。会社は経営厳しき状況に陥り、働く側への影響も著しく、若手・中堅層の離職が増加している。会社は経営自立を目指して「JR四国グループ長期経営ビジョン2030・中期経営計画2025」を策定し、その実現に向けて取り組みを進めているが、目標の達成や社会的使命を果たしていくためには「人財」の確保が必要不可欠。こうした状況を踏まえ、働く立場からも中長期的ビジョンを展望すべく、各課題に対する方策について大会や各種集會により組合員の意見を肉付けし「ユニオンビジョン2023」を策定した。と経緯を説明した上で「我々も前向きに取り組んでいく。会社、グループ一体となって前に進む内容を提言しており、ぜひ我々の想いを受け取ってほしい」と述べた。



大谷執行委員長よりJR四国高松取締役総務部長（上）、ジェイアール四国バス前川常務取締役連輸営業部長（下）に対し、「ユニオンビジョン2023」を手交

「JR四国、ジェイアール四国バスからはそれぞれ一課題認識は労使で一致している。よりよい会社にするべくともに取り組んでいきたい」との考えが示された。

JR四国労働組は、組合員の想いを結集して策定した「ユニオンビジョン2023」を今後のJR四国労働運動の土台とし、会社にも反映させていくことでJR四国グループ全体としての人財確保を目指していく。

※「ユニオンビジョン2023」の概要は次ページ参照



- ◎ 徳島県協 武知 浩之 当選
- ◎ 高知県協 楠目 慎一郎 当選
- ◎ 各県協推薦候補の結果
- ◆ 香川県協
  - ◎ 大西 秀人 当選
  - ◎ 大西 智 当選
  - ◎ 小笠原 浩 当選
  - ◎ 植原 泰 当選
  - ◎ 濱岡 洋貴 当選
  - ◎ 淀 紀清 当選
  - ◎ 友保 陽子 当選
  - ◎ 沼田 友紀 当選

# ユニオンビジョン2023 【概要】

私たちが考える  
「持続可能なJR四国グループをつくる人財確保」  
～誇りを持ち安心して働き続けることのできる環境づくりに向けて～

## ◆ 策定の経緯

- JR四国労組のこれまでの取り組み  
JR四国・ジェイアール四国バスの責任組合として、仲間の安全・雇用の確保を大前提に、健全かつ対等な労使関係を確立し、  
・労働条件の維持・改善、経済的・社会的地位の向上  
・JR四国グループの健全な成長  
に取り組んできた。
- JR四国グループの現状と課題  
コロナ禍の影響により、「移動需要の低迷長期化」「ビジネスや社会生活の変容」が起き、JR四国グループは極めて厳しい経営状況に陥る。働く側にも影響は及び、生活の負担増や将来展望への不安から「若手・中堅層の離職」が深刻な課題に。
- JR四国労組としてこの課題にどう立ち向かっていくか  
JR四国グループが社会的使命を果たしていくためには、「人財の確保」が必要不可欠であり、働く立場からも中長期的ビジョンを展望すべく、「ユニオンビジョン2023」を策定。

## ◆ 働く者の視点からの課題と方策

- ① 労働条件・環境の改善  
【課題】賃金 → 「必達目標賃金」に届いていない  
勤務制度 → 多様なニーズに更に対応する必要性  
安心して働き続けられる環境整備  
【具体的方策】  
・時代に合った賃金カーブの見直しと退職金制度改革  
・複雑な諸手当の見直し、手当偏重型からの脱却  
・鉄道・バス事業特有の働き方の改善 等
- ② 地域に根差した生活の確保  
【課題】配属 → 希望勤務地と要員需給のバランス  
転勤 → 転居を伴う異動への忌避感  
【具体的方策】  
・面談や希望調査等を通じたミスマッチ等の状況把握の徹底  
・単身赴任をはじめとする転居に伴う費用負担の一層の軽減  
・エリア採用制度にむけた検討の深度化 等
- ③ 個人のキャリアビジョンの明確化  
【課題】昇格・昇職経路 → 採用形態は多様化するも経路は画一的  
キャリアパス → 具体像が不明瞭  
【具体的方策】  
・各系統でのキャリアパスの明確化、ロールモデルの提示  
・様々なゴールに対応した制度設計  
・採用形態の多様化による不公平感の是正 等
- ④ 風通しのよい職場環境づくり  
【課題】コミュニケーション → 意見のしづらさによる安全への悪影響  
要員配置 → 年齢断層による歪な要員配置  
【具体的方策】  
・コミュニケーションの充実を図ること  
・勤務時間外、職場外での会話を促進する取り組み  
・あるべき要員体制・人員配置の整備 等
- ⑤ 会社の将来不安払拭  
【課題】鉄道事業 → 赤字体質、コロナ禍による経営危機  
共通認識 → 公的支援実施の必然性に対する理解  
労働条件 → 仕事にふさわしい労働条件・環境の整備  
【具体的方策】  
・「JR四国グループ長期経営ビジョン2030」の達成  
・JR四国グループの担う社会的使命への理解・共感

## ◆ JR四国労組としての今後の取り組み

「人財確保」に向けて、次の6つの取り組みを中心にJR四国労組運動を展開！！

- ① 各種集会やレク活動などを通じた議論・対話機会創出の取り組み
- ② 世話役活動を中心とした、仲間を守る取り組み
- ③ 連合・交運労協のみならず、社会との連帯を広げる取り組み
- ④ JR四国グループの持続的成長を促す取り組み  
(政治・政策、経営計画等の理解)
- ⑤ あるべき労働条件・労働環境の整備にむけた取り組み
- ⑥ 労働組合の活動への参画を通じた人財育成の取り組み

今後のJR四国労組運動の土台とし、会社にも反映させることでJR四国グループ全体としての人財確保を目指す。

実りのある結果を得るには、全組合員の団結が重要！

## 第17回ボウリング大会の開催について

- ◆開催日 2023年 6月24日(土)  
※ 13:15に会場に集合  
大会 シーサイドボウル高松にて  
13:30-15:15  
懇親会 とらべる亭にて  
15:30-17:30

◆対象者 各支部2チーム  
(1チーム4名以内)

※詳しくは  
JR四国労組発  
第95号参照  
お申込は各支部まで！



## JR四国労組青年女性会議 第31回定期委員会の開催について

- 1 日時 2023年 7月15日(土)14時より
- 2 場所 ホテルアネシス瀬戸大橋
- 3 議題  
(1) 2022年度経過報告  
(2) 2023年度活動方針 (案)  
(3) その他



第8回本部執行委員会開催

4月15日(土) 13時より、本部1階会議室にて第8回本部執行委員会を開催した。経過と議事は以下のとおり。

【経過報告】

- ・組織の強化・拡大 (経営協議会)
- ・事業計画、営業施策に関する付議について (JR四国)
- ・事業計画 (JR四国、ジェイアール四国バス)
- ・2023春闘 (団交)
- ・新入社員 (新入社員)
- ・新規採用者加入行動 (職場対話)
- ・高知、愛媛 (財政)
- ・第1回組織財政専門委員会 (政治)
- ・第20回統一地方自治体選挙 (前半戦結果)
- ・JR連合 (JR連合)
- ・組織担当者会議
- ・グループ労組連絡会幹事会

【議事】

- ① 新賃金、諸制度改善、36協定の妥結承認について
- ② 第41回定期大会
- ③ JR連合青年・女性委員会「第27回ユースラリー」の開催について
- ④ 当面するスケジュールについて
- ⑤ その他

・組織財政検討委員会  
・JR連合ビジョン推進委員会  
・労働政策委員会  
・中期労働政策ビジョン検討PT  
・JR北労組における組織支援行動 (その他)  
・新年度を迎えるにあたっての執行委員会声明



国交省への要請行動を実施

JR連合は、4月20日(水)、交通重点政策2023」に基づく国土交通省鉄道局への要請行動及びJR連合産業政策委員と鉄道局各課・室の実務担当者との意見交換を実施した。

意見交換では、冒頭、JR連合を代表して上村産業政策委員長から「地域公共交通活性化再生法改正や社会資本整備総合交付金の地域公共交通への予算配分など、地域公共交通に係る画期的な取り組みが進められている。引き続き各種要望に対し行政からの支援をお願いしたい」と強く要請した。

要請書を受け取った鉄道局長は「鉄道を取り巻く課題は多岐にわたるが、鉄道を将来どのような産業にするかを見据え、政策を推進していきたい」と述べた。

その後、JR連合森安産業政策局長をはじめ、出席者より昨今の燃料費



JR連合自動車連絡会よりバス産業を取り巻く課題への対応を強く要請

高騰などを反映させる柔軟な運賃・料金設定や技術開発・省力化・省人化の推進、高速鉄道・新幹線ネットワークの構築等諸課題への取り組みについて要請し、意見交換を実施。

なお、策定した「交通重点政策2023」は、重点政策として「バス産業の賃金・労働条件は他産業に比べ低位にあるほか、健康起因の事故が多発している」と要請。自動車局阿部企画室長からは、地域公共交通の核を担うバス産業への期待が述べられ、意見交換では不適合事業者の退出を促す仕組みの強化や運転者の健康管理への支援、運賃・料金設定等への要請と意見交換を行った。

また、4月26日(水)にはJR連合自動車連絡会が自動車局に対する要請行動と意見交換を実施。JR四国労組からは自動車支部上田委員長、河野書記長が出席した。

冒頭、JR連合を代表して矢田自動車連絡会代表幹事より「バス産業の賃金・労働条件は他産業に比べ低位にあるほか、健康起因の事故が多発している」と要請。自動車局阿部企画室長からは、地域公共交通の核を担うバス産業への期待が述べられ、意見交換では不適合事業者の退出を促す仕組みの強化や運転者の健康管理への支援、運賃・料金設定等への要請と意見交換を行った。

第17回ボウリング大会の開催について

◆開催日 2023年 6月24日(土)  
※ 13:15に会場に集合  
大会 シーサイドボウル高松にて  
13:30-15:15  
懇親会 とらべる亭にて  
15:30-17:30

◆対象者 各支部2チーム  
(1チーム4名以内)

※詳しくは  
JR四国労組発  
第95号参照  
お申込は各支部まで！

JR四国労組青年女性会議  
第31回定期委員会の開催について

- 1 日時 2023年 7月15日(土)14時より
- 2 場所 ホテルアネシス瀬戸大橋
- 3 議題  
(1) 2022年度経過報告  
(2) 2023年度活動方針 (案)  
(3) その他

JR四国ステーション開発労働組合結成！

4月21日(金)、香川県高松市にてJR四国ステーション開発(株)の労働組合として、JR四国ステーション開発労働組合の結成大会が開催された。

大会では運動方針が決定されるとともに、山下聡執行委員長、荒木俊輔書記長をはじめとする執行部体制がめとされる。JR四国連合への加盟も承認され、40名の組合員で組織する同労組の第一歩を踏み出した。

JR四国連合は新たな仲間の参画を大いに歓迎する！

組合員を引っ張る執行部の皆さん